

第14回 日本痤瘡研究会学術大会

会 頭 山本 有紀 (和歌山県立医科大学皮膚科)

日 時 2025年8月17日(日) 15:10~17:10

会 場 大阪国際会議場 10階 C会場 (会議室1001・1002)
(第43回日本美容皮膚科学会総会・学術大会会場内)

〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島5丁目3-51

参加費 個人会員：無料 (予め配布する参加証を御持参ください。)

賛助会員：(1名につき)10,000円[※]

非 会 員：(医師) 5,000円[※]／(その他：1名につき)15,000円[※]

※事前登録の方には、予め参加証をお送りします。

座長：山本 有紀 (和歌山県立医科大学 皮膚科)

講演1 便秘と痤瘡

演者：松岡 悠美 (大阪大学免疫学フロンティア研究センター 皮膚アレルギー生体防御)

日本人女性には「便秘をすると肌荒れをおこす」という感覚が古くから存在しているが、この感覚は欧米諸国では一般的ではない。便秘患者に見受けられる腸管の細菌叢の乱れ (Dysbiosis) の特徴は、痤瘡患者で報告されている報告と一致しているように見える。しかし、その両者をつなぐ炎症波及のメカニズムは明らかでない。日本人女性の感覚を科学的に明らかにするため、我々の研究室では新規の便秘-痤瘡動物モデルを作成し、便秘が痤瘡に及ぼす影響について解析している。

講演2 思春期痤瘡発症時期の皮膚状態

演者：菊池 麻実子 (花王株式会社 スキンケア研究所)

思春期痤瘡の初期段階である微小面皰発症の時期及び機序解明を目的に、7~14歳の男女を対象として、毛包部の皮膚状態ならびに菌叢を調査した。10歳頃から、額や鼻部で毛包部の微小な隆起と角栓が観察され、微小面皰と想定された。同様の時期に、菌叢中のアクネ菌の存在比の増加が確認された。また、角栓が形成された被験者では角層中でのS100A8、S100A9やトランスグルタミナーゼなどの炎症・角化関連蛋白質の発現亢進を認め、角栓の痤瘡発症機序への関連が示唆された。

座長：林 伸和 (虎の門病院 皮膚科)

講演3 痤瘡治療における保険診療、保険外診療の位置づけ

演者：小林 美和 (こばやし皮膚科クリニック)

患者の多くが10代であることから、まずは保険診療で治療を組み立てる。ガイドラインで推奨される面皰治療薬、内服外用抗菌薬、漢方薬、面皰圧出、囊肿へのステロイド局注などから、症状や患者ごとに治療法を選択する。多くの例ではスキンケア・生活指導もあわせて、早期に炎症性皮疹を減らし維持することができる。一方、難治例や重症例、痤瘡後色素沈着・萎縮性瘢痕に対しては保険外治療や美容診療も考慮し、より良い治療を提案できるようにしたい。

日本痤瘡研究会 (HP: <https://zasou.org>)

(事務局) 〒169-0072 東京都新宿区大久保2-4-12新宿ラムダックスビル9F (株) 春恒社 内
TEL: 03-5291-6231 / FAX: 03-5291-2176 E-mail: jars-office@shunkosha.com

申込書

※事前申込にご協力ください。(個人会員の方は登録不要です。)

(事務局) 〒169-0072 東京都新宿区大久保2-4-12新宿ラムダックスビル9F (株) 春恒社 内
TEL : 03-5291-6231 / FAX : 03-5291-2176 E-mail : iars-office@shunkosha.com